

速 報

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成14年度病虫害発生予察情報について（送付）

このことについて、平成14年度病虫害発生予察速報第1号を発表したので送付します。

平成14年度病虫害発生予察速報第1号

- 1 対象作物 麦類
- 2 病虫害名 赤かび病
- 3 予報の根拠
 - (1) 本病は、麦類では開花期から乳熟期にかけて曇天、降雨が続き、比較的气温が高いと多発する。発病の適温は20～27である。
 - (2) 4月に入り周期的に降雨があり、気温も高く経過しているため、本病の感染に好適となっている。週間天気予報では、周期的に降雨があり、また最高気温が20以上となる日が多いと予想されている。
- 4 防除上注意すべき事項
 - (1) 赤かび病の発生は品質低下の大きな原因となるので、必ず防除を実施する。
 - (2) 麦の生育が早く、大麦ではすでに防除適期である穂揃期を過ぎているので、まだ防除を実施していないほ場では直ちに防除を実施する。
小麦では出穂後7～10日頃の開花期に実施する。2回目の防除は、1回目の7日後頃に実施する。
 - (3) 湿度や気温の高い日が続くと多発するので、降雨が続く場合は、雨の合間をみて防除を実施する。
 - (4) 防除にあたっては、粉剤に比較して液剤の方が安定した効果が期待できる。なお、防除薬剤は「平成14年度普通作物病虫害防除基準」を参照し、安全使用基準を守る。
- 5 その他
 - (1) 赤かび病の原因となるフザリウム属の一部のカビは、急性毒性があるDONなどのマイコトキシンを産出します。
 - (2) 現在、厚生労働省でDONに係る実態調査が実施されており、農林水産省と連携して必要な措置を講ずる予定となっています。
 - (3) このため、14年産麦について赤かび病防除の徹底が重要です。